

【第2学年】児童の課題及び授業改善策

＜平成31年度＞

	児童の課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆相手の話を最後まで聞き、内容に合った質問をする力を付ける必要がある。 ◆音読では、しっかりと声を出して読むことができる児童もいるが、個人差が見られる。 ◆文を書く際に、助詞の使い方や拗音・促音の表記、平仮名と片仮名の使い分けなどを正しく使えるようにする必要がある。また、自分の経験や考えを表現するための語彙を増やす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞き方を意識した対話の時間を繰り返し設定し、意識付けをする。また、聞き方を意識する掲示物を活用して、最後まで聞くことの大切さを指導する。 ○国語や朝音読の時間を生かし、音読の指導を継続して行っていく。 ○ノートやプリント、作文帳に文や文章を書く活動を多く設定するなど繰り返し指導を行うことで定着させる。また、学習中に出てきた言葉の意味を押さえたり、短作文の中で表現方法を学んだりできるように指導する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ◆繰り上がりや繰り下がりのある加法減法について、正確に計算することが難しい児童がおり、習得への個別支援が必要である。 ◆文章題の意味を正しく捉え、立式することが難しい児童への支援が必要である。 ◆時刻と時間、長さの測り方での単位換算および、応用的な問題に苦手意識をもっている児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業だけでなく家庭学習においても繰り返し問題を解いたり、個別指導を行うことで習熟を図る。 ○問題文の言葉や文章を手がかりに図をかき、立式し、課題を解決させる。文章題の読み取りの力を国語との関連で図る。 ○東京ベーシック・ドリルの活用等、家庭での既習事項の練習を大切にし、繰り返し行うことで習熟を図る。 ○支援が必要な児童には繰り返し練習問題に取り組みさせる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ◆動物や植物に触れる機会が少ないため、昆虫と遊ばせたり、草花に興味をもって世話をさせたりする経験をさせる必要がある。 ◆家庭の中で自分の役割に進んで取り組むことに課題があり、家庭と連携を図りながら支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校庭の草木などの学校にある自然環境や、生活科見学で行く公園の自然環境を生かし、生き物や植物に慣れ親しむ活動を多く取り入れる。 ○学習の中で自分が家族の一員としてどのようなことが出来るか考える場を設定し、家庭にも協力してもらう。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ◆リズムや音程などがあいまいになっていることがある。 ◆鍵盤ハーモニカの運指に関する指導をより進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○音をよく聴くように指導するとともに階名による模唱やリズム打ちに親しみながら音程感やリズム感を付けていく。 ○運指に関して、児童に個別に指導する時間を設ける。苦手意識をなくし楽しみながら演奏する雰囲気心がける。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ◆のりやはさみなどの用具の使い方に慣れていない児童への手だてが必要である。 ◆自由に描く、作るというテーマに対して、課題を決めることが難しい児童への支援が必要である。 ◆色を塗ることにに関して、クレパスでの色の塗り方や絵の具の分量や色の混ぜ方の調節に課題をもつ児童への支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○用具の扱い方に関する基本的なルールと技能を身に付けさせる。 ○作品として完成させることを目的とせず、制作過程を楽しめる活動を多く取り入れ、教師が手本を見せ、手順を示すことで安心して取り組めるようにする。また、友達の作品を見る学習を取り入れ、鑑賞を楽しく行い、創作意欲に生かす。 ○色の塗り方について、日常的に指導すると共に、絵の具やクレパスを使う活動を多く設定し、繰り返し指導する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ◆体を動かすことが好きな児童が多いが、すぐに疲れてしまう児童もおり、体力の向上をあらゆる場面で図っていく必要がある。 ◆ルールを守ったり、友達と仲良く取り組むことを課題とする児童が多く、個別支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊具遊びなどを通して基本的な体の動きを身に付けさせるとともに、あらゆる領域で力いっぱい活動する場を設定し、体力の向上を図っていく。 ○ゲーム的な運動を取り入れ、ルールを守ってグループのメンバーが協力することで楽しく活動できる経験をさせる。